

(3) カキ

〔果樹類>落葉果樹>かき〕

① 防除のポイント・注意事項

病害虫名	防除時期	摘 要
炭 疽 病	生 育 期	・一般に甘柿品種群で発生が多い。 ・若木や強せん定により新梢伸長の旺盛な樹で発生が多い。
	[耕種的防除]	・炭疽病が発生している枝は切り取って、焼却する。
落 葉 病	生 育 期	・円星落葉病と角斑落葉病があり、著しい落葉によって、果実が早期に軟化して落果する被害となる。 ・落葉病は5～7月に防除を行う。発病後の薬剤防除は効果がない。
	[耕種的防除]	・落葉病に罹病した落葉は、埋設または焼却処分を行う。
うどんこ病	生 育 期	・初発を抑制する5月および病徴が見え始める8月の薬剤散布が有効である。 ・窒素肥料過多の樹に発病しやすいので、肥培管理を適切に行う。
すす点病	生 育 期	・カキ以外の宿主植物が多い山間部で発生が増加しやすい。
	[耕種的防除]	・密植や過繁茂を避け、通風を良好にする。
切り口および傷口のゆ合促進	剪定整枝時、 病患部削り取り 直後、及び 病枝切除後	・切り口に適量のトップジンMペーストを塗布する。
アザミウマ類	生 育 期	・カキクダアザミウマおよびチャノキイロアザミウマがカキを加害する。
カキクダ アザミウマ	展 葉 期 ～ 幼 果 期	・4月中旬頃から越冬成虫がカキに飛来する。未展開葉の中を加害し、被害葉の葉縁は内側にカールする。6月上旬頃から幼果を加害する。
チャノキイロ アザミウマ	開 花 始 期 ～ 幼 果 期	・一般に「平核無」等の渋柿で発生が多く、甘柿での発生は少ない。 ・多様な植物に寄生し年間5～8回発生する。カキでは着果期を通して加害するが、開花から1か月間の薬剤散布が重要である。
	[耕種的防除]	・光の乱反射により飛来量が減少し被害が軽減されるので、地面に反射シート等を敷設する。 ・雑草が繁殖場所になるので、圃場内外の除草を行う。また、除草に合わせて防除を行う。
カキノヘタムシガ (カキミガ)	生 育 期	・発芽盛期から1週間後(4月中旬頃)が防除適期である。
	[耕種的防除]	・粗皮下において前蛹態で越冬するので、休眠期に粗皮削りを行う。
イラガ類 (イラガ)	生 育 期	・雑食性で、園地以外の樹でも発生するため、園周辺の樹も見回り、適宜、発生幼虫を駆除する。
カイガラムシ類	生 育 期	・排泄物に発生するカビが「すす病」となって果実を汚染する。
	[耕種的防除]	・粗皮下で越冬するので、休眠期に粗皮削りを行う。
フジコナ カイガラムシ	生 育 期	・第1世代(7月上旬～中旬頃)の薬剤散布が効果的である。
カメムシ類	6 月 上 旬 ～ 8 月 上 旬	・カメムシは夜間活動性なので、日暮れ前の薬剤散布が効果的である。
ハマキムシ類	開 花 後 ～ 8 月 上 旬	・ハマキムシの幼虫は巻葉の中において薬剤がかかりにくいいため、加害部に薬剤がよくかかるよう注意して散布する。

カキ【殺菌剤】

RPA

作物名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用時期	使用回数	使用量	使用方法	適用病害虫名/使用濃度（希釈倍率）				
									うどんこ病	すす点病	切り口及び傷口の癒合促進	炭疽病	落葉病
かき	ジマンダ イセン水和剤	マンベブ水和剤	"UN(I*)		収穫45日前まで	2回以内	200～700g/10a	散布				400～800倍	400～800倍
かき	スコア顆粒水和剤	ジフェノコナゾール水和剤	3		収穫前日まで	3回以内	200～700g/10a	散布	3000倍			3000倍	3000倍
					収穫前日まで	3回以内	8g/10a	無人航空機による散布				40倍	
かき	ストロビートライフロアブル	クレキシメチル水和剤	11		収穫14日前まで	3回以内	200～700g/10a	散布	3000倍			3000倍	3000倍
かき	テーク水和剤	シメコナゾール・マンゼブ水和剤	"UN(I*), 3		収穫45日前まで	2回以内	200～700g/10a	散布	600倍			600倍	600倍
かき	デランフロアブル	ジチアノ水和剤	M9	劇	収穫90日前まで	5回以内	200～700g/10a	散布	2000倍			2000倍	2000倍
かき	トップジンMベスト	チオファネートメチルベスト剤	1		【A】	3回以内		塗布			原液		
かき	トップジンM水和剤	チオファネートメチル水和剤	1		収穫前日まで	6回以内	200～700g/10a	散布	1000～1500倍	1000～1500倍		1000～1500倍	1000～1500倍
かき	ナリアWDG	ピラクトロピリン・ボスカリド水和剤	11,7		収穫前日まで	2回以内	200～700g/10a	散布	2000～3000倍			2000～3000倍	2000～3000倍
かき	ネクターフロアブル	イソキサゾラム水和剤	7		収穫前日まで	3回以内	200～700g/10a	散布	1500倍				1500倍
かき	ベルコート水和剤	イミダゾジニアルベシル酸塩水和剤	M7		収穫14日前まで	3回以内	200～700g/10a	散布	1000～1500倍	1000～1500倍		1000～1500倍	1000～1500倍
かき	ベルコート水和剤	ベノミル水和剤	1		収穫前日まで	6回以内	200～700mL/m ²	散布	2000～3000倍	2000～3000倍		2000～3000倍	2000～3000倍

使用時期：【A】 剪定整枝時、病患部削り取り直後、及び病枝切除後

カキ【殺虫剤】

RPA

作物名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用時期	使用回数	使用量	使用方法	適用病害虫名/使用濃度(希釈倍率)											
									アザミカ類	イガ	イガ類	カガシカ類	カキダアザミカ	カキ/ヘタシカ	カムシ類	チャノキイロアザミカ	ハマキムシ類	アジコカガシカ		
かき	アグロリン水和剤	シハルメリン水和剤	3A	劇	収穫前日まで	3回以内	200~700%/10a	散布	1000~2000倍					1000~2000倍	1000~2000倍					
かき	アドマイヤ水和剤	イミダクロプリド水和剤	4A	劇	収穫7日前まで【A】	3回以内	200~700%/10a	散布	1000~2000倍						1000倍					
かき	オトラン水和剤	アセフェート水和剤	1B		収穫45日前まで	2回以内	200~700%/10a	散布					1500倍	1500倍		1500倍				1500倍
かき	カスケード乳剤	フルフェノキサロン乳剤	15		収穫14日前まで	2回以内	200~700%/10a	散布					2000~4000倍	2000~4000倍						
かき	キラップフロアブル	エチアロール水和剤	2B		収穫7日前まで	2回以内	200~700%/10a	散布	2000倍						2000倍					
かき	コファフロアブル	クロルフェナピル水和剤	13	劇	収穫14日前まで	2回以内	200~700%/10a	散布	2000~4000倍		2000~4000倍			2000~4000倍						
かき	コト顆粒水和剤	ピリタキナゾン水和剤	9B		収穫前日まで	3回以内	200~700%/10a	散布				2000~3000倍				2000~3000倍				
かき	ジェイエース水溶剤	アセフェート水溶剤	1B		収穫45日前まで	2回以内	200~700%/10a	散布					1500倍	1500倍		1500倍				
かき	スカトロフロアブル	トラネトリン水和剤	3A	劇	収穫7日前まで	5回以内	200~700%/10a	散布	2000倍					1500~2000倍	1500倍					
かき	ミチワノ水和剤40	MEP水和剤	1B		収穫30日前まで	3回以内	200~700%/10a	散布			800~1000倍			800~1200倍	800~1000倍					800~1200倍
かき	ダントク水溶剤	クロフェニジン水溶剤	4A		収穫7日前まで	3回以内	200~700%/10a	散布	2000~4000倍					2000~4000倍	2000~4000倍					
かき	トクワシ乳剤	プロチリス乳剤	1B		収穫75日前まで	2回以内	200~700%/10a	散布	1000倍					1000倍					1000倍	1000倍
かき	ハーマワノ水和剤	フェンハレト・MEP水和剤	1B,3A	劇	収穫30日前まで	3回以内	200~700%/10a	散布	1000~2000倍		1000倍			1000~2000倍	1000~2000倍				1000~2000倍	
かき	バダノSG水溶剤	カルタップ水溶剤	14	劇	収穫45日前まで	4回以内	200~700%/10a	散布		1500倍				1500~3000倍		1500倍				
かき	モスビラン顆粒水溶剤	アセタミプリド水溶剤	4A	劇	収穫前日まで	3回以内	200~700%/10a	散布	2000~4000倍			2000~4000倍		2000~4000倍	2000~4000倍					

使用時期：【A】（ただし、露地栽培については発芽期から開花期を除く。）